

第2回 まほろば健康パークにおける インクルーシブ機能検討委員会 議事概要

【日 時】 令和6年5月28日（火） 13:00～14:30

【場 所】 まほろば健康パーク会議室

【出席者】 鶴殿委員、菅家委員、根本委員長、野村委員（WEB参加）、
星野委員（WEB参加）、前田委員（欠席）、松本委員、矢藤委員
[オブザーバー]
柳澤国営飛鳥歴史公園事務所長（WEB参加）、
東田大和郡山市建設部長、
乾井川西町まちづくり推進担当理事

【概 要】

・第2回目の議題は、以下の2点

- ①整備コンセプト・整備方針（案）
- ②第3回検討委員会（導入する機能、提供サービス）に向けた市町村からの
意見聴取（大和郡山市、川西町）

- ①整備コンセプト・整備方針（案）について

以下の内容について事務局より説明

- ・（資料3）検討委員会（第2回）委員会資料

（整備コンセプト・整備方針（案）について）

- ② 第3回検討委員会に向けた市町村からの意見聴取について

【各委員・オブザーバーの意見】

A 委員

- ・ハード整備によって場を作るだけでは、なかなか進まない。交流を促進するために、直接的・間接的な仕組みを作る、ここを民間にどんな工夫、やり方があるのか、そこもぜひ含めてサウンディングをしてもらえればと思う。
- ・サウンディングはいろいろやり方があり、トライアルサウンディングというものもある。特に公園や広場を長期的に誰かにいきなり使ってもらおうということではなく、短期的にトライアルをもらおうやり方である。
- ・長期的にいきなり貸すのではなく1日、2日でまずやってみませんか。週末だけでやってみませんか。それで少し事業性の判断をしませんか。行政側の

負担はどのぐらいになるのかというところを少しずつ試していく。ある程度長期的に行けそうだと判断したところでお互いにまた長期的な相談をする。雨水のところを現状のまま残していくのはもったいないので、トライアルサウンディングはどんどん積み重ねていって、良いものがあれば長期でやっていくというやり方もあると思う。

- ・ 県全体の課題で「楽しく」と入っているが、コンセプトのところ「楽しく」が一つも入っていないので、加えてもらえると嬉しい。

B 委員

- ・ 公園の中で駐車場もそれぞれの近いところに作るというのもそうですが、さらに行き止まりがなく、どこの道を走ってもどこまでも出れる。この先行き止まりと言われると多分女性ドライバーはパニックになると思うので、動線をうまく、道幅も広げて欲しいし、こっちに行っても結局はまた戻ってこれる、あそこに行けるなど必ず行き止まりにならないような配慮を、障害者や車に子供を乗せてるとどこで子供が降りたいと言うかもしれない。この辺りは西名阪や京奈和も通っていてすごくアクセスに恵まれたところなのに開発されていない。和歌山からでも京奈和ですぐ来られるし、大阪からも西名阪や第二阪奈など高速も通っている。そういう県内外からの人々にそのスポットというのは、奈良に来てもらうにはすごく大切なことだと思う。
- ・ 公園の整備がどっちかという屋外の話が多いのかと思う。やはり屋内の施設ももう一度きちんと見直して、子供は雨だから家にいると言ってもきかないので、小さな子供に明日行くとしたら、雨であろうが晴れであろうが明日お出かけするというのは、気持ち的に楽しみにすると思う。雨でも屋内の施設で十分1日楽しめるような、そういう公園でもあってほしい。例えば、e スポーツがあれば良いのかと思う。まずスタートラインをそういう施設の中で得意な方が講師で来て、とっかかりの部分をそういう教室や遊び感覚でしていると聞いたので、雨であればそういうものがあればいいかと思う。

C 委員

- ・ この場をインクルーシブな場にするというためには、その準備段階の整備段階から、インクルーシブということ意識する必要があるだろうと思っている。例えば7月には子供たちから意見を聴取するということが今後の予定として書かれているが、そのときには、障害の有無を問わずあらゆる多様性のある子供たちが一緒に、例えばワークショップを実施するなどして、公園についてどういうふうなものにしていくのかということの意見を広く聞くということに加え、子供たち、そしてその保護者も交えながら、障害があろうとなかろうと場を共有していく機会を作ること、おそらく整備において

はインクルーシブな役割を果たしていくと思う。

- ・防災ということも観点に入れるのであれば防災に関わるゾーンというものも設定できないだろうか。当該地域、地区は浸水の可能性が非常に高いということで、防災拠点にはなり得ないが、ただ、防災を意識するという点においては、むしろ有効に利活用できるのではないかなと思う。防災という時には、障害の有無や何らかの特性を問わずお互いが助け合うことが求められている。そういうテーマを設けることでお互いを理解することも可能になると思うが、場所だけ作っても両者の交流は生まれず、保護者を中心に誤った理解をするケースも多々見られる。プレーリーダーを、例えば社会福祉士など福祉の専門職を配置するなど検討の余地があるかと思う。
- ・防災とインクルーシブということから、例えばお手洗いを整備するという時に、モバイルトイレを配置するというのも一つの可能性としてはあるかと思う。例えば、普通免許があれば牽引できるようなモバイルトイレが開発をされていて、それはどのような車椅子であっても利用できるということが特徴です。近隣地域で災害が発生したときやどこかの高齢者の方や障害者の方の社会福祉施設などで緊急にお手洗いが必要になった時などは、ここの公園に配置をしているモバイルトイレをそのまま引っ張って行って使えるようにしておく、ということも一つインクルーシブと防災という観点に合致している。
- ・インクルーシブな公園ですよとうたうのではなくて、中身がインクルーシブであると事前に整理案として出すということで、結果として誰もが遊びやすい、来やすいということだと思う。障がいのある無しにかかわらずということで、どういう風に運営するか、どういう風に作っていくかにつきると思う。これまで従来は拒絶されがちだったインクルーシブな場を提供している施設にも現在は希望者が殺到している事例がある。一方いろんな理念を掲げて楽しいとうたっても誰も来ないということもある。
- ・障害があろうとなかろうと誰でも一緒に遊べますよと大々的に言うのではなくて、その機能をいかに担保するかが重要である。

D 委員

- ・ゲートや駐車場に関して、現状の川西町から入りにくいこと、新しく橋をつくること、奈良の道は混むのでどうアクセスさせるのかについて、24号線や25号線との関係を広い視野から見て、今後検討していく必要があると思います。
- ・施設の中については、昔は芝生ゾーンがあんなに開けていたのが今は森のようになっているということに非常に驚いた。自然を生かしていくということですが、現在の森の木を活かした「キャンプ」ができる公園構想は非常に良いと思います。日本ではあまり研究が進んでいないが、遊びや身体活動を通し

て「ライフスキル」を養っていきます。いざ災害などの状況になったときはどうやって命を繋いでいくのか、生活に密着したスキルを子どもの頃から体験しておくことは有効であり、子どもたちがいろんな試行錯誤ができる場所をぜひ作ってほしいと思う。

- ・駐車場に関しては、「遠い場所の方が体力がつくから、ある程度遠いところに設置するとよい」と前回お伝えしましたが、これは自然と体力をつけていけるように子どもたちを動かしてあげる工夫をするという趣旨です。そしてゾーニングは、「私はここしか使わない」「障がいがあるからここしか使わない」ではなく、発育発達、個性に応じたゾーニングを行っていく。動的な活動ができる区画と静的な活動ができる区画、また、室内であったり、屋外であったり、そして思いっきり体を動かせる広い場所も作り、いろいろ取り交ぜてゾーニングする。それらを分け隔てることなくゾーニングしていくことで、園路を歩いていくうちに、他の個性と接触して世の中（社会）を知れる。いろいろな人がいることを知り社会性を育み、次は私こういうところにチャレンジしよう、あの人が困ってるなら助けてあげようなど、こういうことを感じることでインクルーシブな精神を子どもの頃から養う。また、引率の大人の考え方も変えていける力のあるゾーニングをして、自然と子どもたちが異年齢等の自分とは違う他者と関わられるような園路を敷いてほしい。それが認め合う「インクルーシブ」に繋がっていくと思います。
- ・ソーシャルスポーツ、ソーシャルビジネスがどんどん発達してきています。中学生の部活動の地域移行も進んでいき、やがて地域に子どもたちの身体活動の場がおりてくることを見込まれます。近い将来を見据えて、子どもだけではなくて大人も、高齢の方も、皆さんで関わられるような仕組み作りが県民の生活の質（QOL）に有効であると思われまます。
- ・多目的広場は、子どもたちが将来に向けて何かのきっかけを育む可能性やライフスキルの獲得効果を展望して、県民の様々な働きかけ（ニーズ）にこたえられるように構想する。多様なことをお互いに知る・学ぶというインクルーシブな場という意味で「多目的」広場というコンセプトを設定するのがよいかと思ひます。
- ・子どもたちが街の公園では狭すぎて、ボールを思いっきり投げたり蹴ったりして走り回ることもできない。そこで障害のある無しにかかわらず、それぞれの身体が思いっきりエネルギーを思いっきり出して体を動かせる場を設けていただきたい。そこが例えば野外ライブ場にもなるような広場として、集客力のある公園としても活用されると、経済の循環拠点にもなりうるかと思ひます。

E 委員

- ・大きな木を生かせるような使い方、切って何か作るというのも惜しい気がするのですが、できるだけあの視点も残したまま、作ってほしいと感じました。
- ・駐車場がやはり非常に遠い。そしてまた、障害者の方としては駅のところに2台しか止められないし、北側の駐車場や何台かの駐車場はありますが非常に遠いので、南側の方にできたら駐車場を作ってほしい。駅もやはりインクルーシブな公園ということであれば、駅の東側のホームからこちらへ渡れるよう、車椅子でも来られる形にするのが、公園の名前としても必要なことではないかと感じました。
- ・障害のある子が学校を卒業すると運動する機会がなく、健康に問題がでてくる。養護学校では、運動場の周りを自転車で回る運動をしている。先ほど現地調査したところ自転車の道路があった。ああいうところを利用するために、自由なレンタル自転車で障害の子は乗れない場合もあるので、三輪車の自転車であるとか、親子で来た、親子ともに乗れるような、例えば5人乗りの自転車等、車椅子のまま一緒にみんなでサイクルスポーツセンターにもいろんな自転車が置いてある。そういうような自転車を置いて、家族とともにこのコースを回ったり、雨の日だったら屋根のついた自転車に乗って一緒に回ったり。そうしたら一緒に来て運動というところまでいかないかもわかりませんが、他の子供たちと一緒に乗ったり、その自転車の乗り方を学んだり、ルールを守るということも学べるような施設があれば良いと思う。
- ・広いところで木の立ってるその自然を利用してキャンプというのは、非常に良いと思う。
- ・キャンプをする、そういう泊まる施設があったら、普段からそういう施設を利用して障害のある子供が宿泊訓練をするというような機会があれば、多くの人が泊まっているところでも体験的に普段からやっていると、いざというときに慣れたところで避難できるということもあるのではないかと感じました。
- ・遊び場を全て無料にするのか、まだ決めていないと思うが、駐車場が無料ですからもっと遊び場を有料にして、障害のある方はちょっと安くするとか。夏はプールがあって、非常に車が多いから停めにくいというのもありますけど、全ての人が無料で来るようになったら、またあまり魅力的なものにすると、非常にたくさん車が集まってきてしまい大変だと思う。
- ・養護学校の方が駅にエスカレーターやエレベーターを作ってほしいと要望され、障害者のために作っていた施設が結局一般的になり、全体のことを考えて作ったわけではないが結果的にみんなのためになっている。全ての人に喜ばれるのは難しいと思う。だからある程度障害のある人のために作った方がみんなのためになるのではないかと教えていただいた。結局、時間がたてば

結果も変わってくると思う。

F 委員

- ・実際に現地を見学すると、やはり少し途切れ途切れになっている感じがしました。子供連れて訪れた方がこども広場で遊ぶ。でも芝生広場まではちょっと離れていて、インクルーシブエリアとなるとまたさらに遠い。連続性を持って回遊することがこのままだと難しい印象です。作業用の車道はありますが、もう少し利用者が回遊しやすいアクセスルートになると人の流れが生まれる気がします。
- ・こども広場ですが、今あるのが主に登って滑り降りる遊具で遊びのタイプが限られている。年齢層による使い分けはありますが、体験という点では、回る、揺れる、飛び跳ねるなどもっといろいろなタイプが考えられます。子供たちの豊かな育ちを支える、多様な人のニーズに応えるという観点から、遊びの幅をいかに広げるかが鍵になってくると思います。
- ・遊具に限らずランドスケープを工夫することでそれほど費用をかけなくても子供たちが繰り返し訪れたり、季節によって違う楽しみ方ができたりする可能性があります。これから整備するインクルーシブエリアだけでなく自然エリアにもインクルーシブな要素を取り入れることで、多様な人が公園全体を楽しめると思います。芝生広場や林のエリアも、いかにみんなが楽しんだり行ってみたりしたくなるような場所にするか。それからこども広場ももう少し他の楽しみ方ができる要素を入れられると、きょうだいや家族連れで来ても、(福祉系の)事業所や学校関係の方が団体で来ても楽しみが広がる気がします。
- ・「今まで障害のある子供たちの遊べる場を提供してなかったからこういう子供たちにも」っていうところからスタートしているので、コンセプトに「障害がある人もない人も」という文言が入るのは理解できるしわかりやすいんですが、そもそもインクルーシブは障害に限らず、年齢とか性別とか国籍や人種、社会的、経済的、文化的な背景も含めてあらゆる人が含まれること目指すものです。あえて「障害」っていう言葉が前に出ると、「障害のある人のために配慮した公園なら、私は関係ない」と、他人事になってしまいがちな面があります。
- ・障害のある子供にどんな遊具、遊び場が欲しいか聞くと具体的なアドバイスをいろいろくれますが、その通りの遊具があれば遊びに行くかと聞くと「行かない」と言われたことがあります。つまり「“遊べるか”と“行きたいか”は別」で、単に遊べるだけではなくて、「みんなが行きたくなるような魅力があって、ここで遊べる子はうらやましいなって周りの人から思われるようなところじゃないと、なかなか“行きたい”とは思わない」ということでした。

障害のある人がただ「利用できる」ではなくて、あらゆる人にとって魅力があると、いろんな年代の人が公園に集うきっかけにもなります。

- ・他の委員から、花が見えるところがあると、子供だけじゃなくって、お年寄りや障害のある方を含め大人も出かけてみたいなと思うというお話もありましたけれど、いろんな方が交わるような場づくりという意味で、（”障害のある人もない人も”より）「多様な誰もが」とか、（”利用できる“より）「楽しめる」とか「魅力がある」というような表現の方がいいんじゃないかなと思います。

G 委員

- ・川西町から行きづらいというお話をさせてもらいましたけれども。ちょうど川と川に挟まれたところで分断感が生まれやすい立地でもあるのかなというところと施設がだんだん変わってきていて、一時期にできたものではないものが合わさっているっていうところもあって生まれている分断化っていうのもやはりあるのだなと気付かせて頂いた。スイムピアが完成し、エントランス部に建物が出来たことにより、芝生広場に人がいなくなったのは、ゾーニングが変わり、動線が分断されたことが起因しているように思う。
- ・インクルーシブの機能を、主にこの赤の枠の中に作っていくということなんですけど、全体の動線であったり、ゾーニングも見直していかないと本当にこの公園自体がインクルーシブなものにはなっていないのかなと、お話を聞いて感じましたので、そういった動線であったり、ゾーニングについても、どうすればインクルーシブな公園になっていくのか。専門の皆様にもご意見をいただいて言って頂いたらと思いますし、そんな方向で検討が進めばいいのかなと感じました。

H 委員

- ・フラワーセンターがあったときは、動線が順番に奥まで入って行けたイメージがある。今の動線は駐車場から歩いて奥までが長すぎるので孫を連れていくのは大変である。南側に駐車場があると、今後、テニスコート、インクルーシブな誰もが、若い者も年寄りも健常者もまた障害者のいろんな方が来れる。
- ・大阪の天王寺駅のように駅前に持ってくるというのはできない話なので、その辺もう少しいろいろと考えられたらいいかと思う。川西町がいろいろここで新しい事業をやっているんで、被らないような感じで考えていく方が15haの公園、企業誘致の公園と両方だと思いますが、15haの公園とまた同じくらいの公園が2つあって、どれだけ遊べるのか、人が来るのかというイメージがある。その辺をいろいろ整備分けした方がというイメージである。

I 委員

- ・山形県の「シェルターインクルーシブプレイスコパル」は屋内施設があり、最近作られた施設ですが、体育、施設の中でいろんな遊びができるのと同時に、一室でeスポーツ（デジタルアトラクション）をやっている場所があります。雨の日だけではなくて、冬の長い期間どういう過ごし方をするのかを考えた評判のいい施設です。
- ・日本の公園行政は管理しやすいようにゾーニングで囲い、ある程度用途を決めて使ってもらおうという形をとってきており、使い方をかなり束縛しているというのが事実かと思う。この公園の空間構成が実体験として途切れ途切れになっていて繋がりが無いという話に多分繋がっていくのだろうと思う。各ゾーンをどうやってスムーズに繋いでいくのかというところがとても大きなポイントではないかと思う。
- ・コンセプトですが、大きく2点を書いていた中で、上の方に障害がある人もない人も全てが一緒に利用できる公園という提案があり、参考イメージのところでも前回申しあげました通り、遊具主体型のインクルーシブ公園ではあってはいけないのではないかと。やはりこれからの次世代を担うインクルーシブ公園というのは、公園全体で展開すべきではないかと考えますし、これをダイアグラムできちんと提案すべきだと思っている。
- ・インクルーシブ機能検討区域というふうに赤で囲まれてしまっているところがあるが、これは皆さんの意識の中でも、この赤の実線を点線に変えていってですね、少し公園全体の中でももう少し柔らかな融合といいますか、ゾーニングの中でインクルーシブを捉えるべきではないかなと思っています。まとまってあることというのは、非常に先ほどのゾーニング議論じゃないですけども、管理する側にとっては非常に効率がいいわけですけども、これを少し全体に展開していくようなことを考えないと新しい公園の姿は生まれないのかなと思います。
- ・大和平野田園構想下永地区とまほろば健康パークを繋ぐ道路について、近鉄のボトルネックの話もございますが、やはり動線をどれだけ広げて回遊できるような形を取れるかということは、かなり大きなポイントとなります。
- ・駐車場について、南エリアにやはり駐車場をとる必要性というのは少なからず出てくるだろうなと思っています。そういった中で、北と南の駐車場っていうのがそれぞれ終着地点でいいのかどうかという議論があらうかと思えます。つまりは公園の中で回遊しなくていいのだろうかというところも一つの議論かと思っています。
- ・北のゾーンがいっぱいになったときの臨時駐車場で、7、8月頃園内の結構メインの通路を通して南の臨時駐車場の方に流しているという実態があるが、公園の安全性といいますか、安心感といいますか、そういう点からすると、こ

れはかなり致命的なことだと思います。南と北の駐車場が十分に確保されてそこで完結すればいいお話なのかもしれませんが、満車だったときにまたぐるっと戻って北に行かなくちゃいけないとか。そういうことが必要なのかどうかということも、一つのポイントかなと思っています。

- ・「多目的」という言葉、使われ方、あるいはその実空間に関しての指摘がありました。インクルーシブをどう捉えるのか、大きく影響を与える重要な部分であると考えます。
- ・子どもの遊びは、あまりプログラムを押し付けすぎると発達しません。その場が持っている潜在的な場所の価値や魅力から生まれる遊びというのも当然あると思います。その辺をもっと柔軟に、継続的に議論していきたいと思えます。

【まとめ】

- ・インクルーシブをどのように捉えていくか大事だという中で、実際には障害のある方を中心に考えていかななくてはいけないが、広く多くの方々に楽しんでいただけるような公園を目指さなければいけないので、「多目的」の議論を継続していきたいと思う。
- ・空間を見ていくと、既存の公園のゾーニングが空間の分断を生んでいるところもあるので、インクルーシブ機能の展開を含めながら、うまく全体をつないでいくようなつながりを生み出せるようなことができないかと考えているところである。
- ・インクルーシブと言うのは遊具であったり、空間そのものだけかということに関して、準備段階からインクルーシブは始まっているのだと、大事なコメントだと思うのでこの辺も大事にしながら進めていきたい。
- ・公園全体をつないでいく中で、この公園が持っている既存施設の価値と言うものを再評価していく必要がある。既存の施設、屋外だけでなく屋内の施設もあるが、バリアフリー的にどのような評価がなされているのか、インクルーシブの視点から何か使える要素が無いのか、きちんと洗い出して、ピックアップして全体の計画に繋げていければ良いのかと思う。
- ・民間企業に公園の運営管理に入って頂いて専門的な知見からアドバイスいただくことは大事なことである。
- ・防災の観点から、また個人の力を強めるという観点からも大事なことである。一方、民間の施設にあまりおんぶにだっこということのも危ういところである。県としてのスコープをきちんと持ったうえでそういうスキルを活かしていくという視点も大事にしていきたい。そういう中で短期間でのトライアルサウンディングは非常に効果的なことではないかと思う。お互いハッピーになる

ためにもそのようにスタートすることはありかと思う。

- ・次回、個別のエレメントの話に移っていくわけですが、全国に類のない新しい形でのインクルーシブの提案がこの場からできていくと良いのかなと思う。